

298 ヤエザクラ



バラ科

花時期 4～5月

サクラの園芸品種を総称してサトザクラと呼んでいる。品種の多くはオオシマザクラやヤマザクラを母種として生まれたもの。花が八重咲きのは、一般的にはヤエザクラとかボタンザクラとかよばれている。

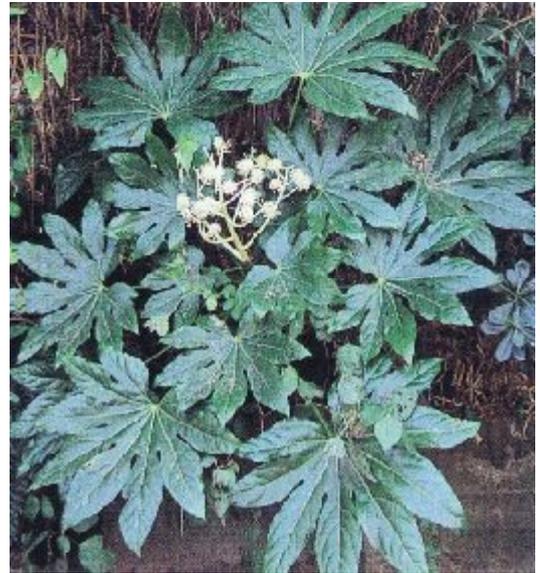
300 ヤツデ



ウコギ科

花時期 10～11月

暖地の沿岸地に自生する。葉掌状に7～8裂するのでこの名がある。日陰に強く、日当たりの悪い場所でもよく育ち、根締めにされたりする。茎の先に散形花序を円錐状にいくつも付け、白い花を咲かせる。実は翌年の4～5月に黒く熟す。



301 ヤマグワ (クワ)



クワ科

花時期 4月

山地に自生する。養蚕用に栽培されることが多い。木目が美しいので器具材としても珍重される。樹皮は灰褐色、不規則な縦の筋が入る。雌雄異株だがときに同株。ドドメと呼ばれる集合果は約1cmほどで、夏に黒く熟す、生食のほかジャムにもされ、甘くておいしい。



303 ヤマブキ

バラ科

花時期 4～5月

山地の溪流沿いや落葉樹林の林内に生え、群落をつくる。万葉集にも登場するほど栽培の歴史は古い。高さは1～2m。若い枝は鮮やかな緑だが、次第に木質化して3～4年で枯れる。葉や花には利尿成分が含まれる。花弁は5枚。園芸種にヤエヤマブキがある。

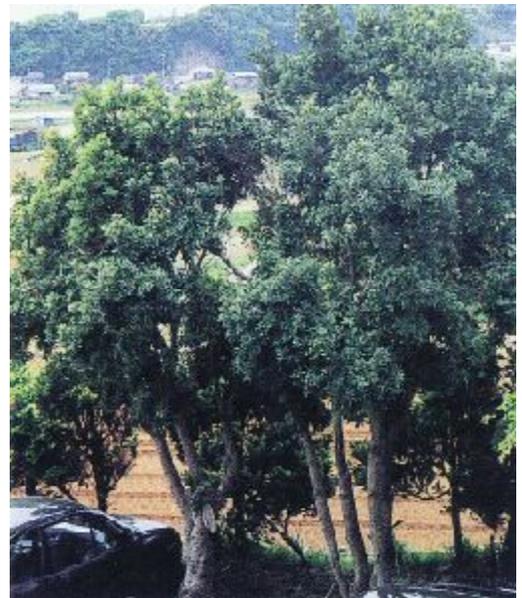
304 ヤマモモ



ヤマモモ科

花時期 3～4月

雌雄異株で穂状の花序（花の集まり）を出す。雄花序は橙色、雌花序は紅色。径1～2cmの実 は6月に熟す。葉は枝先に密につく。赤く熟する実は食べられる。





402 エビヅル

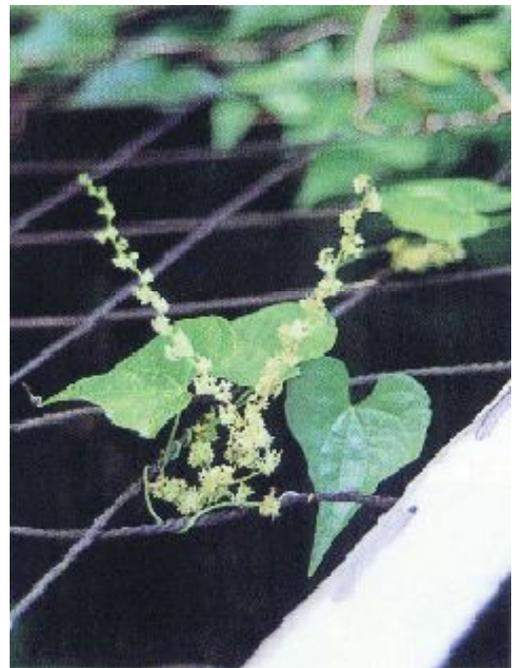


ブドウ科

花時期 6～8月

ブドウに似たつる植物。冬は落葉し、まきひげは葉と対生にでるが、2節つづいてでると、次の1節にはでない。葉は互生で裏には茶色の毛が一面にはえている。花の穂は葉と対生で花は小さい。雌雄異株。果実はブドウのようで食べられる。

(近似種：ノブドウ)



403 オニドコロ



ヤマノイモ科

花時期 7～8月

山野に生えるつる性の多年草。葉は互生し、円形～三角状心形で先は長くとがる。雌雄異株。雄花序は淡緑色で直立し、雌花序は垂れ下がる。根茎は長寿を祈る正月の飾りに使われるが、苦みが強く食べられない。

(近似種：ヤマノイモ、ヒメドコロ、タチドコロ)



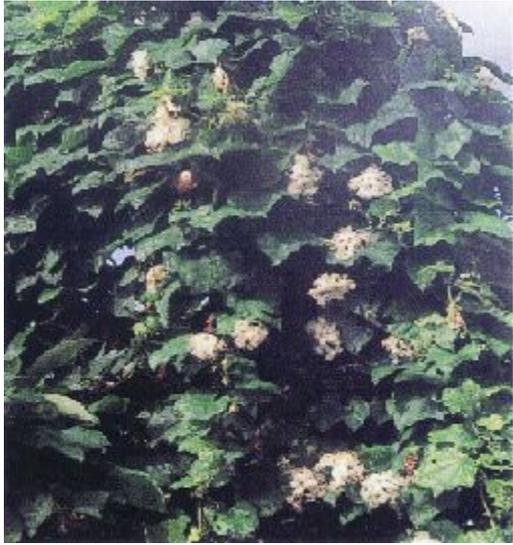
404 カナムグラ



クワ科

花時期 9～10月

荒地・林縁・道ばたに大繁殖のつる性の1年草。茎や葉柄に細かい逆向きのとげがあり、物に右巻きに巻き付く。葉は掌状に5～7つに深裂し、表面はざらつく。雌雄異株で、雄株は黄緑色の小さい雄花が円錐状に、雌株は紫褐緑色の雌花が松かさ状につく。薬草で、煎じて利尿・解熱に服用する。



406 キカラスウリ □

ウリ科

花時期 7～9月

やぶなどに生えるつる性の多年草。葉の表面にやや短毛がある。花はカラスウリに似ているが、花冠の裂方の先は広い。果実は黄色に熟す。雌雄異株。根や種子からとったデンプンはあせもに利く。

(近似種：カラスウリ)

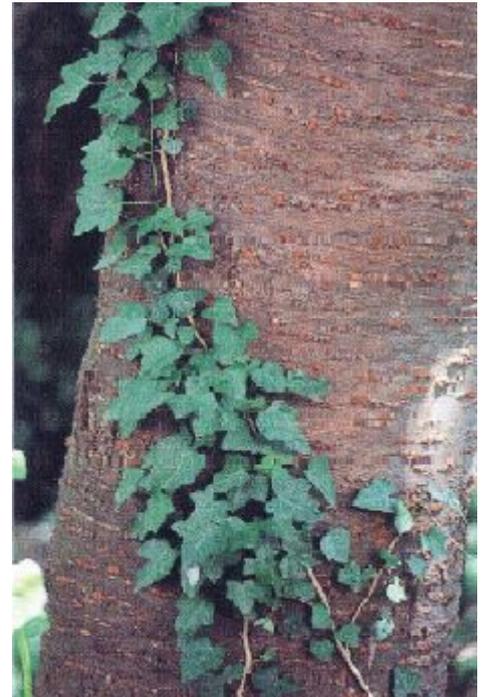
407 キヅタ (フユヅタ) □

ウコギ科

花時期 10～11月

野山に生えるツル性の常緑低木で、茎から気根をだして他の木や岩などにはい上がる。葉は菱形卵形(若木のものは掌状に裂ける)で濃い緑色でつやがあり厚い。花は黄緑色で集まって咲く。

(近似種：セイヨウキヅタ)



408 クズ □

マメ科

花時期 7～9月

秋の七草のひとつ。根からとったデンプンが葛粉である。根を乾燥した物は風邪薬の葛根湯(かっこんとう)。茎からとった繊維で織った布を葛布という。山野に見られるつる性の多年草。全体に粗い毛がある。葉は3小葉で花は紅紫色で総状に多数つく。

(近似種：ヤブマメ、ツルマメ)



409 スイカズラ □

スイカズラ科

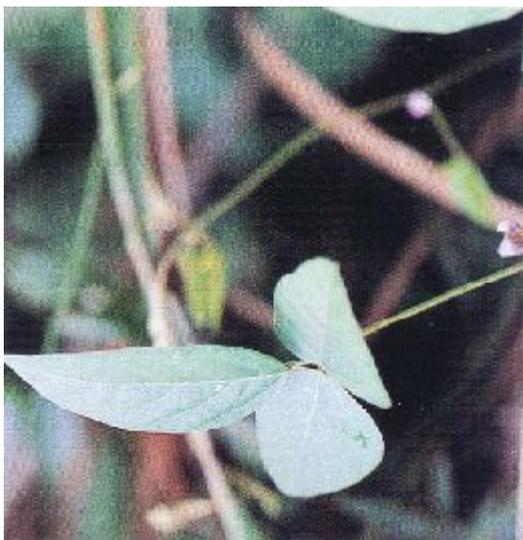
花時期 5～6月

山や平地にはえる。半常緑木本で、枝は長くのび、物にまきつく。若枝や葉には軟毛がある。葉は楕円形でややとがっている。花は最初は白色か少し赤みがかっているが、後、黄色に変化する。

410 スズメウリ □

花時期 8～9月

果実がカラスウリより小さいことからつけられたとか果実がスズメの卵に見たてたものともいう。原野や水辺などに生えるつる性の1年草。葉は三角状卵心形でしばしば浅く3裂する。雄花、雌花ともに葉腋に単生する。果実は卵形で直径1cmに熟すと灰白色になる。(近似種：アレチウリ、アマチャズル)



412 ツルマメ □

マメ科

花時期 7～9月

一年草。野原にはえる。茎は他のものにまきついてのび、下向きの毛がはえている。葉は3枚の小葉からなる複葉で托葉は小さい。花は短い穂になってつき、果実の表面には毛が多い。名はつるになるマメの意味で作物のダイズもこの類。

(近似種：ヤブマメ、クズ)



413 ヒルガオ



ヒルガオ科

花時期 7～8月

越年草。野原や道ばたにはえる。葉はほこ形でもとの方は横に広がらず、形に変化が多いが全体に長めである。花はコヒルガオよりも大きく色もこい。名は花が昼間も開いているからである。

(近似種：コヒルガオ、ハマヒルガオ)

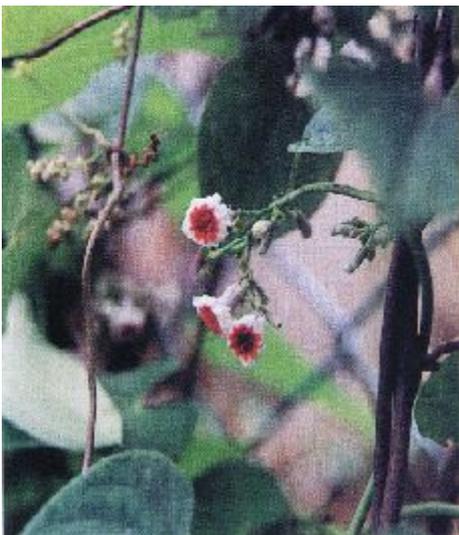
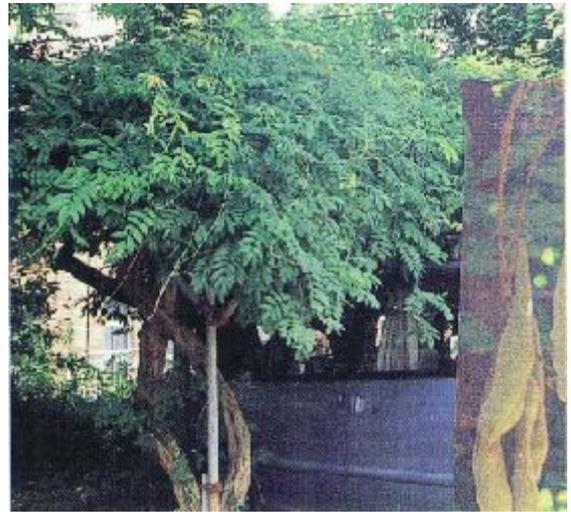
414 フジ (ノダフジ)



マメ科

花時期 4～7月

山野に自生する日本の固有種。庭木として昔から鑑賞されてきた。つるの繊維が丈夫で、布やひも、かごの材料にされた。つるは右巻きに伸びる。葉は羽状複葉で若葉に毛がある。花序は垂れ下がり、付け根の方から咲く。豆果の沙耶は木質でかたく、はじけると勢いよく種子が飛び出す。



415 ヘクソカズラ



アカネ科

花時期 8～9月

やぶにはえるつる草。茎はほかのものにまきついでのびる。葉は対生、茎にも葉にも毛がはえている。葉をもむといやなにおいがする。名はへやくソのようにくさいつる草という意味。果実はしもやけの薬として利用されてきた。



416 ボタンヅル □

キンポウゲ科

花時期 8～9月

葉がボタンの葉に似ている。日当たりのよい山野に生えるつる性の半低木。葉は一回3出複葉。小葉は広卵形で先は鋭くとがり、不ぞろいの鋸歯がある。花は花弁は無く、白い花弁状のガク片4個が十字形に開く。

(近似種：センニンソウ)

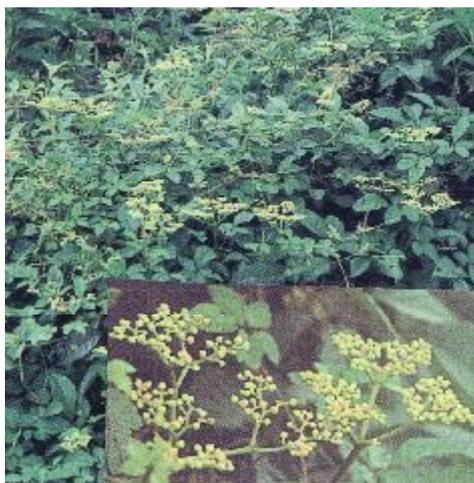
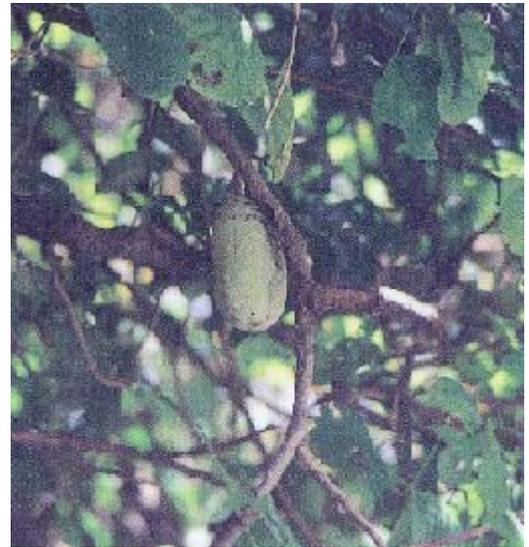
417 ミツバアケビ □

アケビ科

花時期 4～5月

野山に多いツル性の落葉植物。同じ茎に雄花と雌花が別々に咲く。実は長さ10cm以上あり食用になる。ツルは籠などをつくる。葉が3枚のものをミツバアケビといい、葉のふちに波形の鋸歯があるのが特徴。アケビは葉が5枚で掌の形になる。

(近似種：ムベ、アケビ)



418 ヤブガラシ □

ブドウ科

花時期 6～7月

宿根草。野原ややぶにはえる。まきひげて他のものにまきついでるのび、地下茎は地中を長くはう。若芽はこい紫色で、ひよろひよろしている。葉は5枚の小葉からなる複葉でまきひげは葉と対生する。果実を結ぶことはない。やぶをからすほどしげるの意味。



419 ヤマノイモ

ヤマノイモ科

花時期 7～8月

多年草。茎はつるになり、葉は対生または互生で、地中に大きな根がある。雄株と雌株は別。花にはがく片、花弁が各3枚、雄花には雄しべが6本、雌花には雌しべが1本ある。果実には3個のひれがある。名はサトイモに対していう。とろろで食べる。

(近似種：ナガイモ、オニドコロ)